

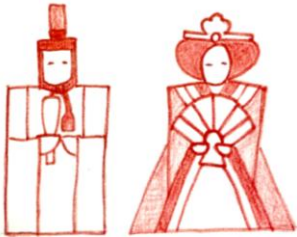
絆

きずな

図書館ボランティアだより

第47号 令和4年(2022年)3月1日

阪南市図書館フレンズ広報部会



図書館フレンズ 3月の活動予定

*入会などのお問い合わせは、阪南市立図書館
図書館フレンズ事務局(072-471-9000)までご連絡ください。

| 部会 | 活動内容・日時 | 場所など |
|---------------|---|-------------|
| 配架部会 | 返却本を本棚にもどす 開館日：午前9時～10時 | 図書館内 |
| 書庫入れ部会 | 書庫で返却本の整理をする 毎週火曜日：午前10時～12時 毎週金曜日：午前10時～12時 | 図書館3階 |
| 図書整備部会 | 本の修理など 毎週月・金曜日 午前10時～12時・午後1時～3時 | 図書館内 |
| 館内装飾部会 | 児童コーナーの飾りを制作し飾りつけ 最終火曜日午前中 | 図書館内 |
| 広報部会 | 広報「絆(きずな)」の編集・発行 「絆(第48号)」編集会議 3月20日(日)午後2時30分～4時 | 編集会議はオンラインで |
| 生け花緑化整備部会 | 館内の生け花や観葉植物の世話 随時 | 図書館内 |
| ブックスタート部会 | 絵本の読み聞かせとパックの配布 3月3日(木)4ヶ月児健康診査時 | 保健センター |
| おはなしでてこい | お話・絵本の読み聞かせ・紙芝居など 毎週土曜日 午後2時～2時20分 | 図書館内紙芝居コーナー |
| はじまり はじまり♪紙芝居 | 紙芝居の上演 新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置実施のため中止 | 図書館内紙芝居コーナー |

*活動日は、新型コロナウイルス感染症の急拡大によって、変更になる場合があります。

カット 河野芳夫



図書館フレンズ紹介

わたしたちの活動



配架部会

配架部会長 豊田紀美代さんと
広報部会長 本荘貴大との対談

配架とは？

本荘：本日は、お忙しいところ有難うございます。早速ですが、配架部会はどのような活動をされているのですか？その前に「配架」は「はいか」と読むのですね。私は、初めてこの言葉を知りました。

豊田：はい。「はいか」と読みます。私たちは、返却された本を作家名や本の題名別に整理し、指定の棚に戻して、借りる人がわかりやすくする活動をしています。

ここにもコロナの影響が・・・

本荘：図書館が開館する前にその作業を終らなければならないのですね。早朝から開館の10時までにというように限られた時間内にしなければならず大変な作業ですね。

豊田：今のところ、コロナの影響で参加人数が少ないので、たくさん返却本がある時、開館までにすべての作業を終ることは出来ない状態です。以前よりボランティア参加の人数が少なくなっています。

本荘：返却された本が多いのは、日曜日の朝や、木曜日の朝でしょうか？

豊田：そうですね。日曜日・木曜日が多いです。また、連休明けの朝も多いですね。

夏の朝は大変

本荘：配架の活動で一番大変なことは、どのようなことでしょうか？

豊田：冬は寒くても動き回るので大丈夫ですが、夏の朝は、冷房が入っていても動き回りますので大変です。

活動して良かったこと

本荘：活動していて「良かった」と思われるのはどのようなことでしょうか？





豊田：適度な運動と、頭も使うので自分自身の健康に良いので続いています。

お勤めではないけど決まった時間に動くので生活にメリハリがあります。

分担して活動

本庄：私は、広報「絆」の編集に関わるようになって初めて配架部会の皆さんの活動を見せていただき、図書館がこんなにたくさんの皆さんに支えられていることを知りました。

広報「絆」が月刊になって、配架部会の皆さんの活動を紹介する時に初めて、「開館日」のすべての日に活



動されているということを知り、毎日大変なご苦労をおかけしているということも分かりました。

もちろん、開館日すべてを同じ人が活動されているわけではないと思いますが、部会員の方の割り当てはどのようにされておられるのでしょうか？

豊田：活動するのは本人の都合の良い日を事前に報告しています。都合の悪い日は、お休みをさせていただきます。

本庄：そうですか。部会員の皆さんの熱意で支えられているのですね。何か図書館にご要望がありますか？

豊田：特にありません。図書館の皆さんが良くしてくださりありがたいです。

本庄：本日は、有難うございました。
(敬称略)



配架部会

活動日：開館日

午前9時～10時 図書館内

連絡先：阪南市立図書館

072 - 471 - 9000

令和5年度からの図書館への指定管理者制度の導入がせまってきました。多くの市民からは、財政難の折からやむを得ないという声が聞かれます。また、導入に当たっては、サービスの低下を心配する声もあります。そこで、阪南市立図書館は一体誰のためのものなのかを今一度図書館ボランティアに携わっている私たちも考える必要があるのではないかと思います。今回、大変お忙しい中、加藤館長に対談をお願いし、もう一度図書館のあり方や、図書館ボランティアの意義について一緒に考えてみたいと思います。

橋本：本日はお忙しい中有難うございます。早速ですが、私が、図書館フレンズ代表になり図書館フレンズの各部会の活動内容を知ってびっくりしたのは、参加者の多さと、熱意です。コロナ禍が終われば、さらにたくさんの図書館ボランティアの参加者があるものと確信しておりますが。

加藤：コロナ禍にあっても、多くの方が感染症対策を取りながらボランティア活動を続けてくださっています。本の整理や修理などの作業は、個人参加できることから、参加しやすいという声も聞いています。長い方は10年以上続けてくださっています。

月1回の参加からOKというボランティアですので、さらに多くの方に図書館を知るきっかけとして体験していただき、市民が使いやすい図書館にするために力を貸していただきたいと思います。

毎年3月に次年度の図書館フレンズを募集するための説明会を開催していますが、今年は新型コロナウイルス感染症のまん延防止期間でもあることから、集団での説明会ではなく、下記の通り、申し込んでいただいた日に個別対応する形での説明会を予定しています。

- 3月11日（金）・14日（月）・18日（金）・10時～11時

- 3月10日までに事前申し込みが必要です。

橋本：新しい図書館の準備がいろいろとなされており、「本のある居場所」もその一つだと思いますが、どのような趣旨で活動を始められるのでしょうか？

加藤：かねてからサラダホールのエントランスを有効活用出来ないか、という意見がありました。昨年、森林環境譲与税基金を活用した事業について庁内で募集があった際に、エントランスに国産木材で作った本棚と机、椅子を置いて「居場所」を作ることを提案し、採択されました。

“まちライブラリー”という本を通じて人と人がつながる場を作ることは、その時から想定しており、興味のある方に呼び掛けて「まちライブラリー@サラダホール」が結成されました。

3月6日（日）はオープニングイベントを図書館と共催で行います。“まちライブラリー”を提唱された磯井純充先生も来られます。“まちライブラリー”は思いのこもった本の寄贈により育つものです。この「絆」を読まれる本の好きな皆様にも、活動に加わっていただきたいと思います。

（以下の対談は、次号に続きます。）